

一定の成果をみる

実質単年度収支が黒字

■決算特別委員会で、19年度決算を徹底審査

平成19年度決算は、9月12日に決算特別委員会を開会し、全会計を審査しました。9月19日の本会議で採決の結果、賛成多数で認定されました。

賛成多数で 決算認定

歳出 70億9,681万円
(町の支出) (対前年比0.2%)

歳入 74億2,825万円
(町の収入) (対前年比0.5%)

一般会計

会計項目	歳入(町の収入)	歳出(町の支出)
一般会計	74億2,825万円	70億9,681万円
特別会計		
十王財産区	126万円	21万円
下水道	11億6,461万円	11億5,158万円
国民健康保険	15億6,302万円	14億6,785万円
老人保健	17億6,138万円	17億6,041万円
農業集落排水	8,560万円	8,404万円
介護保険	13億934万円	12億9,557万円
企業会計		
水道	収益的収支 3億4,752万円 資本的収支 7,427万円	2億9,702万円 2億8,524万円
病院	収益的収支 11億8,336万円 資本的収支 1,500万円	11億8,290万円 1億2,165万円
訪問看護	収益的収支 3,668万円	3,787万円
合計	149億7,034万円	147億8,116万円

※万円未満は端数を整理しています。

討論

反対

賛成

反対討論 本木勝利議員

歳入では、18年度と19年度を比較すると、鳴り物入りですすめた税源移譲は、所得の低い白鷹町にとって、財源の豊かさにつながりません。定率減税の廃止などにより町民の負担が増しただけになりました。歳出では町民が十分な議論をする間もなく、こぐわ・あゆかい統合保育園用地を取得したことに反対をします。高齢者を差別する後期高齢者医療制度は、年金から天引きするなど、国民から

反対議員(2人)
本木勝利議員
佐竹典明議員

賛成討論 今野正明議員

平成12年度に134億円あった一般会計の起債残高が94億円程度になったことは、行財政改革・起債管理の成果と言えます。山口・中山地区の地域活性化計画策定など、協働のまちづくりの形が具体的にできています。鮎貝まちづくり事業は、交流と定住を基本としたニュータウンとして着実にその姿を現しつつあります。企業誘致や白鷹サテライ

賛成議員(10人)
五十嵐政司議員
菅 祐二議員
岡田 明議員
青木彰榮議員
加藤秀人議員
今野正明議員
遠藤幸一議員
守谷丹吾議員
関千鶴子議員
菅原隆男議員



にぎわうヤナ公園

借金残高94億円

本町の財政状況は、19年度末で地方債(町の借金)残高は94億円(前年度末103億円)となりました。財政指標は、経常収支比率が93.0%と0.4ポイント上昇しています。起債制限比率が0.4ポイント、実質公債費比率が1.7ポイント減少し、公債費に関わる指標が、改善されています。税源移譲による歳入減や、集中改革プランに基づく歳出削減などのマイナス要因はあったものの、鮎貝まちづくり事業関連で決算額が増加しています。

監査意見書

町民目線での行政執行を望む

財政健全化法も施行になり行財政改革の推進に当たっては、町民に対する説明責任を果たし、合意形成をはかれるよう強く望みたい。税金においては未納額が増えている。納付意識の啓発に努めながら、新たな徴収対策の導入などに努められたい。公共工事などの業者選定に当たっては、より高い公平性・透明性を確保されたい。特に随意契約に関してはいずれに付さない理由を明確にしておく必要がある。追加工事の変更契約についても、より明確な基準に基づく執行をされたい。職員一人ひとりが町民ニーズや社会情勢を的確に把握し、民間感覚の良さを学び意識改革に努め、町民目線で町民のための行政執行を希望する。

梅津正夫代表監査委員
加藤秀人 監査委員

19年度に行った主な事業

コミュニティ助成事業 (秋野メモリアルパーク整備事業)	250万円
あゆかい保育園送迎バス更新事業	365万円
合併処理浄化槽整備事業	851万円
省エネルギー型農業機械等緊急整備対策事業	869万円
公的分取造林造成事業	101万円
松くい虫防除事業等	416万円
ヤナ公園整備事業	2,787万円
企業立地促進事業	700万円
除雪機整備事業 (大型ドーザ・歩道除雪機)	3,311万円
赤坂深山線道路改良事業	2,000万円
畔藤館の内線道路改良事業	1,950万円
消防施設整備事業 (防火水槽・小型動力ポンプ整備)	976万円
鮎貝まちづくり拠点施設整備事業	2億6,710万円
鮎貝新駅舎・交流広場整備事業	3,663万円
四季の郷住宅整備事業	976万円
学校給食共同調理場設備整備事業	640万円